



6月20日(土)・21日(日)に鶴岡市で行われた中学校総合体育大会田川地区大会(柔道の部)において女子団体の部で7年連続優勝、男子は4年連続準優勝を勝ち取るとともに、女子は団体の部で8年連続県大会出場を果たしました。

また、個人の部では佐藤晴斗さん(3年)、菅原澄華さん(2年)、鈴木七海さん(3年)、菅原京華さん(3年)、佐久間絵理華さん(3年)、中鉢菜月さん(2年)が優勝し、佐藤ルウさん(3年)、佐藤咲羽さん(1年)が準優勝、計8人が県大会へ駒を進めました。

大会出場に向け取り組む三川中学校柔道部を取材しました。

ひやくせつふうとう

三川中学校 柔道部 百折不撓

何度失敗しても曲げない信念

中学校総合体育大会 田川地区大会

3年生、中学校最後の大会の幕開け

団体戦には男子、女子ともに出場し、個人戦では男子8人、女子9人が出場しました。

中学校総合体育大会（以下、中総体）の男子団体戦は5人、女子は3人で戦います。男子団体戦は先鋒・佐藤晴斗さん（3年）、次鋒・佐久間圭斗さん（3年）、中堅・後藤瀬成さん（3年）が、副将・菅原健人さん（3年）、大将・渡邊光さん（3年）が出場し、拮抗した試合を続け決勝戦まで勝ち上がりました。県大会への切符を手にするための優勝がかかった決勝戦の相手は4年連続立川中学校。立川中学校は三川中学校と同じく、歴史ある柔道の強豪校です。審判の「始め！」のかけ声で試合が始まり、選手5人それぞれが「勝ちたい」「自分が勝ってチームに白星を」という勝利への気迫が観客まで伝わってきました。



しかし、結果は1対4。因縁対決ともいえる試合を制したのは立川中学校でした。

一方、女子の団体戦は先鋒・菅原京華さん（3年）、中堅・佐藤ルウさん（3年）、大将・



中鉢菜月さん（2年）という布陣で臨み、2対1で見事7年連続優勝を飾りました。

個人戦は男子で佐藤晴斗さんが唯一の県大会出場、女子は庄勝で出場選手9人中7人が県大会出場を決めることができました。

中学校総合体育大会

山形県大会

全国大会へつながる大事な大会



県大会初日は、団体戦から始まります。地区大会同様の布陣で予選リーグ突破、そして決勝トーナメント進出を目指します。

予選1試合目、米沢四中に3対0で勝利後、舟形中、小国中にそれぞれ3対0で勝利し、予選リーグ1位で決勝トーナメントに進みました。準決勝、山形四中に苦戦したものの1対1の内容勝ちで逃げ切り、いざ決勝戦へ。準決勝での悔しさをバネに挑んだ決勝戦では強豪・最上中を3対0で圧倒し、見事優勝を果たしました。三川中女子の圧倒的な強さは、結果が物語っていました。



2日目の個人戦では、男子の部で唯一出場した佐藤晴斗さんが初戦は突破したものの2回戦で惜敗。女子は7人が出場し、個人戦でも持ち前の強さを発揮しました。結果、佐久間絵理華さんが準優勝で東北大会へ、そして菅原京華さん、佐藤ルウさん、中鉢菜月さんがそれぞれの階級で優勝し、東北・全国大会への切符を手に入れました。



三川中の強さの秘訣は。

一つめは、小学校から中学校まで指導の連携がうまくいっていることです。今の環境だと、小学1年生からスポ少に入団することができず、小学3年生まで9年間その子を指導することができません。小学生のうちから将来を見据えた指導ができることはとても強みだと思います。

二つめは、指導の仕方を工夫していることです。自分の経験だけにとられず、子どもたちの個性を伸ばすことに気をつけています。また、実戦を想定した状況練習や、組み手の練習などは三川オリジナルの練習方法。他校と比べて県外への出稽古の数も多く、たくさん経験の積ませているのも特徴の一つです。

三つめは声です。どこの会場に行っても声の大きさが三川中をすぐに見つけることができます。声の大きさは自信の表れ、子どもたちは自信をもてる練習をし、大会に臨んでいます。普段から声を出す練習も取り入れ、最近では大会会場でも声出しから行い、大会終了後には三川中学校の校歌を歌っています。

一つめは「基礎・基本をしっかりと身につけること」です。今だけ勝てる柔道を指導しても、いつか壁にぶつかります。大切なことは基礎・基本という幹をできるだけ太くし、段階的に応用という枝や葉を増やしていくことだと思っています。

二つめは「無理」と言わせないこと。最近の子どもたちはやる前から「無理」と言います。何事もまず、やってみるから始まります。「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」という意識をもたせることも大切になっています。

三つめは礼儀です。武道は「礼に始まり礼に終わる」と言われるほど礼儀を大切にしています。あいさつや返事など、社会に出て必要なことを柔道を通して学んでほしいと思っています。

全国大会は

北海道函館市にて

8月17日(月)から

これから、最後の夏が始まる。

1年間柔道部員たちをひっぱって来た部長2人に三川中柔道部について、また、大会への意気込みをお聞きしました。



女子柔道部部長
佐藤ルウさん（東沼町内会）

三川中学校柔道部は男女ともに仲がいいチームで、この仲の良さがいいチームワークとして団体戦で活きていると思います。

試合では、目標は全国大会だと見据えつつ、しっかりと一つずつ勝ち進んでいきたいと思っています。

また、今まで応援してくれた人たちに感謝の気持ちを忘れずに試合をしたいと思っています。



男子柔道部部長
菅原健人さん（横山中町内会）

三川中学校柔道部は今までの先輩方も自分たちも、仲が良い部だと思っています。

きつい練習もみんなで声を出し合ったり励まし合ったりすることで今までがんばれたし、自分も部長としてみんなをまとめ、ひっぱることができたと思います。

柔道部を支える人たち



コーチ
菅原 司さん（横山中町内会）

三川中柔道部の目標は県大会ではありませ

ん。その先の東北大会そして全国大会を見据えています。

言ってみれば私たちコーチは自分の時間を割いて部活の指導をしているボランティアです。そんな私たちにあって、子どもたちがいい試合をした時の笑顔は何よりの報酬です。



三川町柔道愛好会会長
三浦正明さん

柔道愛好会として、子どもたちの健全育成選手強化のため指導員を送り出しています。

試合をするときに心がけてほしいことは、上の大会に進めば進むほど試合に出られなかった選手たちを思いながら、悔いを残さないよう精一杯戦ってほしいということです。そして、感謝の気持ちを絶対に忘れてはいけません。



柔道部顧問
阿部千佳子先生

自分が顧問としてできることは、健康管理を含め、練習に取り組む環境を整えること、そしてひた向きに取り組む生徒たちを心から応援することだと思っています。がんばって練習に取り組んでいる姿を見ると、それが試合で出せばいいなと思います。

三川町は柔道が盛んな町だと感じます。三川中柔道部は、そんな地域の方々を支えられて今があります。